

校内 問答歌 最優秀賞

2年 佐田 みらい (横田)

問の片歌 「おむすびは 三角形に 俵の形」

五七五の問の片歌に対して、五七七で答える問答歌に挑戦して全国に応募し、校内選考をした結果、最優秀賞となった佐田さんの答は「縁結び 人と のつながり 形なくとも」。また、優秀賞には「いつからかひとり でいつも考えること」の問に、 3年寺澤龍基さんの「いつまで もあの人思う 幸せの道」も 答えの片歌 「縁結び 人と のつながり 形なくとも」

エッセイ 家族の思い出 最優秀に輝く県民会議会長賞

2年 藤永 まどか (益田東)

家族の絆や思い出を綴った「家族の思い出 エッセイ」に応募した藤永さんは、「誰のために生きるのか」と題し、誰に対しても優しい母親が、家族には意外と厳しさを貫き通す姿勢に尊敬する。食品ロスが多い今、食への価値観や感謝の心の大切さを学び、母親のような優しい人間になりたいという思いを、600文字の中に込めた。

ニーズの変化が加速している現代 多様な人材の多様な生き方を認めて時代にマッチしたセンスの確保

この春から自由な組み合わせの制服を取り入れた。金太郎館はどこを切っても同じ形。画一的な考えではなく柔軟で自由な未来へ繋がるために。

eスポーツ部 創部

見せよ!! 内に秘めた闘志を!! 目指せ!! 栄光のSTAGEを!!

エレクトロニックスポーツの略で電子機器を用いて行う競技。東部3連覇の強者を下し EGSスクール杯 フォートナイト大会

優勝

2年 塩安 祐 (高津)

ビデオゲームによる対戦をスポーツと捉えるeスポーツを4月から新しく発足した。部員は男女合わせて12名。この競技、世界の大会でも日本は1・2位でやがてオリンピック競技にもなろうかという勢い。塩安さんは高根東部の3連覇の強者を下しての優勝。eスポーツを日本の文化にという思いから始まった全国高校eスポーツ選手権の前回は、全国から194校346チームがエントリーし今年も第4回となる。時代を創る主役は君だ!

お茶 新俳句大賞

★団体応募賞 佳作特別賞2名

3年 西林 風 (松原五)

海外も含めて全国から約200万句も応募がある「お茶」お茶新俳句大賞に、夏休み課題として全校生徒が取り組み、五七五の十七文字の中に自分の思いを入れ込み、練り上げて考えた西林さんは男子ばかりの野球部クラス、思いを寄せた彼女とジャンケンというチャンスを勝ち。チョコキを出して勝敗は相手。特別佳作賞となり自分の句が掲載されたペットボトルが市場にお目見えすることになった。この春卒業した生徒も入賞し、学校名が記載された団体応募賞にも輝いた。入賞の確率は2000人に一人である。

税に関する 作文

「益田税務署長賞」の賞状と副賞を益田税務署長さんより表彰された。税のことをあまりにも知らない自分に気がつき、知識や意識が深まるきっかけとなった。タイトルは「知らないということを知る」。

3年 土井 茉奈美 (東陽)

2年 宇都宮 優誠 (四条順西)

3年 松岡 優 (大正)

税金は国をよくする第一歩 松岡 優

税金を悪く思うな 未来のため 宇都宮 優誠

全国川柳コンクール

入賞 「相合傘 濡れてる僕が 嬉しくて」 今春卒業 岸上 琉音

交通安全川柳

最優秀賞 「気の緩み 大きな事故への 第一歩」 今春卒業 本上 大翔

優秀賞 「少しだけ スマホの確認 後じゃダメ？」 3年 浅原 琉那 (青陵)

優秀賞 「シートベルト あなたを守る イノチツナ」 2年 齋藤 桃

文武両道の精神で いろいろな分野に挑戦!

考える・練る・まとめる・表現するこの空間。推してきて試みて感じる心の動き。自分では気がつかず人を傷つけ傷つけられることもある人生の中で、相手を思いやり考えていく心こそが、柔らかい感性となり優しい愛を紡いでいく。そしてその積み重ねが幸せの輪を拡げていく。

子育て 子育て ことのは大賞

2年 奥永 翔稀 (青山)

2年 尾崎 遥 (谷塚)

2年 蓮台 真梧 (粉河)

2年 大庭 萌瑠 (中西)

2年 長嶺 光作 (益田)

第20回 ことのは 大賞表彰式

県民会議会長と丸山知事と2年河本 天(三隅)

お知らせ

夏季体験入学会 8月19日(金)

お知らせ

特別進学コース&部活動 合同体験入学 7月9日(土)

国・英・数・理 体験授業 生徒との交流

ALTマルロンの「夜の学習塾」体験

4つの部活動体験

- eスポーツ
- 女子バレーボール
- 女子バスケットボール
- 吹奏楽

ことのは大賞

子育てや子育ての中で、大人も子どももそれぞれの思いを持って喜び悩みながら成長していく。コロナ禍でなんとなく閉ざされた空間ではあるが、心の中心の思いは無限で自由。「第20回ことのは大賞」の表彰式に出席した河本さんは、知事との対談で「心の中に入ってきた思いを正直に作りました。」と臆することなく語り、知事さんから直に名刺をいただいた。作品は「コロナで外に出ることが少なくなり、日付感覚が鈍くなった。脳までゆっくり自粛しているからかな。」個人の部のこころ賞には、長嶺さんの「五輪の金! 家族の歓声に犬まで吠える」。生徒40作品の中から代表の五名が団体賞に輝いた。左2枚のカルタは生徒の作品。

書: 2年 高橋 直子 (益田)

こころ賞と団体賞

- ・変な動きをしている弟に「何をしているの?」と聞くと、「お姉ちゃんの実真似」と言われた。ダンスです。(大庭)
- ・「ありがとう」その一言で救われると故郷の母さんが言った。それなら僕は何十回でもラインで救えるよ。(蓮台)
- ・高校入学して初めて故郷へ。家の中に入ったとたん大号泣。こんな僕に僕がびっくり。(尾崎)
- ・故郷を離れて初めての帰省で、五歳の妹が短冊に「にいちゃんにあいたい」と書いてあった。思わず感動した高校生の僕。(奥永)

特別コース 三瓶合宿 4/2~4

親睦と学習習慣を目的として特進コースを希望した19名が参加した。

(国立三瓶青年交流の家)

第2回 Masuda石見神楽Week 「日本武尊」オープニングイベント

日本遺産に登録された5月20日を「石見神楽の日」とし、5月15日~22日に神楽の歴史と魅力を発信するイベントがグラントワ中庭で開催された。神楽部はオープニングで「日本武尊」や「大蛇」などを披露し、衣装を纏ったままパフォーマンスを交えながらキヌヤショッピングセンターに向かって神楽ウォーク後、会場で愛好者たちと記念撮影をしてふれあった。部長の榎並愛斗さんの(高津)願いは、地域の皆さんと交流する伝統芸能の護持である。部員は女子3名を含めて9名。

ピカピカ 輝く1年目

大学時代は広島で市民の吹奏楽団に入ったり、ゼミナール活動では音楽を通して保育園児や小学生と関わったりするなど、楽しく音楽活動に取り組んだ。在学中に比べると、母校の環境がさらに整ったICT化が進み、新しい部活動も増えてピカピカしている。学校全体に活気があり、生徒たちの真剣な姿勢や新しいことに挑戦する意欲に接して、自分自身しっかり頑張ろうと思う。

大学時代は半年間、アメリカのアイダホ大学へ語学留学に行き、中国・韓国・台湾などの留学生たちと一緒に生活した。失敗を恐れずに国内外を英語で挑戦して、何事にもひるむことなく進むことの大切さを学び、そんな経験が今、活かされていると思う。生徒のみんなが頑張っているところを探るのが楽しくてマイブームになりつつある。長崎から島根に来て、穏やかで人柄のよい益田が大好きだ。

【国語】 吉岡 初乃先生

【英語】 畑地 克海先生

全国大会 出場

9年連続 17回目出場

3年 河本 瑞葉 (浜田三)

2年 代田 唯夕香 (旭)

弁論大会で二人とも入賞。優秀賞の代田さんは、8月1~3日 東京都の文京学院大学で開催される全国高等学校総合文化祭並びに文部科学大臣旗全国高等学校校弁論大会に出場する。9年連続17回目の全国大会出場となる。彼女の地元旭町にある刑務所の訓練生の話で「コッペパンの願い」と題して言葉の芸術を競い合っている。

令和三年度 島根県高等学校弁論大会 優秀賞 代田 唯夕香 (旭中学校出身)

優良賞 河本 瑞葉 (浜田三中出身)

於 松江市